

第1学年1組 生活科学習指導案

1 単元名 いきものとなかよし～みつけて さわって なかよしいさくせん！！～

2 単元について

本単元は、主に、生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」と関わるものである。

子供たちは、生き物を飼育する過程で「元気に長生きしてほしい」や「なかよくなってえさを安心して食べてほしい」など思いや願いをそれぞれがもつものである。その思いや願いを実現するために、生き物本来の生育環境や生態に目を向けたり、見つけたことやさわって感じたことを友達と共有したりして、一人一人の思いや願いの実現方法を学んでいくようにしたい。また、生き物を育てるといった責任感や生き物の立場に立った見方や考え方を育てることで、子供たち自身の成長にも気付かせていきたい。

<児童の思いと教師の願い>

本学級の児童は、これまでの校庭での遊びや公園探険を通して、少しずつ身の回りの生き物に目を向けることができるようになってきている。休み時間に自主的に虫かごを持って、友達と楽しそうに虫探しをしている姿や、ビニール袋を持って嬉しそうに自宅に持ち帰る姿が見られた。その半面、進んで関わろうとする児童は少数にとどまり、さらに、生き物の世話の仕方、えさの種類が分かるなど生き物にふれて実際に世話をした経験をしている児童は限られている。生き物に関心がありながら、さわれない児童や眺めているだけにとどまっている児童も見られ、生き物と関わる体験が不足していることが伺える。生き物が好きで昆虫などを捕まえて喜んで教室に持ってきた児童も、根気強く世話をしようとする態度は身に付いているとはいえない。

そこで、単元を通して、一人一人が生き物と直接、継続して関わられるよう活動の工夫をしたい。捕まえた生き物は、可能な限り学級で飼育させたい。飼育活動を通して対象を観察させることにより、生き物と触れ合う経験が少なかった児童も、身近でよく観察したり、世話の方法を自分たちで考えたりするなど積極的に生き物に関わることができるようになるだろうと思われる。結果、生き物の様子や変化をより意識的に見ることへとつながり、スズムシが羽をふるわせて鳴いていたり、コオロギの雌は産卵管があるといった姿を見たりするなど、今まで気付かなかったことへの新たな気付きにつながっていくと思われる。また、生き物を世話する活動を通して生き物への愛着をもち、生命を大切にしようとする態度を自然に養っていくことができると思われる。

また、生き物をより身近に感じさせるために、捕まえた生き物の名前や体のつくり、飼い方など進んで調べられる環境を整えたい。その方法として、図鑑や絵本、タブレット端末(以下、通称名ギガタブ)を活用していく。すみかであつたらう”生き物を捕まえた場所“や、飼っている生き物そのものを写真で撮って、記録を残すことも有効だと考える。その際の内容としては、「バッタがジャンプしたら、羽でパタパタとんだよ。」「ダンゴムシは、つつつくと丸くなるんだよ。」のような1年生らしい表現も大切にしていきたい。

まとめる段階として、お気に入りの生き物と関わる活動における自分の思いや、気付きを表現する際、観察カードやギガタブで撮った写真を見せたり、生き物の動きの動作化、生き物の体のつくりを詳しく模型にして表現したりして、友達に伝えることができるようにしたい。その際、国語や図工などの他教科との合科的な授業を展開していきたい。

3 単元目標

生き物を採集し、飼育する活動を通して、その生き物の変化や成長する様子に関心をもって働きかけ、その生き物に合った世話の仕方があることや生命をもっていること・成長していることなどに気づき、その生き物への親しみを持ち、生き物を大切にすることができるようにする。

4 評価規準

単元の 評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
			動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気付いている。	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。
小単元における 評価規準	1	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物が生息している環境や捕まえ方に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物がいそうな場所を見通して、採集方法を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生き物に関心をもって、生き物を探そうとしている。 ・捕まえた生き物と仲良くなろうとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の成長の様子や生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物に合わせて、世話の仕方を試している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育している生き物のすみかやえさに関心を持ち、繰り返し、世話をしようとしている。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・虫網などの用具や虫めがね、タブレット端末の安全で正しい使い方が分かる。 ・生き物の動きや体の特徴について気付いている。 ・上手に生き物の世話ができるようになった自分に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の不思議を虫めがねやタブレット端末を使ってよく見て調べている。 ・絵や文、工作、体を使うなど、様々な方法で見つけた不思議を表現している。 ・他の生き物の成長などの違いで、比較しながら表現している。 ・自分の見つけた不思議を自覚し、友達の発表を聞き関連付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕まえた生き物を思いや願いをもって、粘り強く世話を続けている。 ・捕まえた生き物と仲良くなろうとしている。 ・絵本の読み聞かせなどのから、生き物の不思議に関心を持ち、調べようとしている。

5 研究の視点

視点1 自校の実態を見直し、低学年の児童の身近な「ひとものこと」と体全体で関わる具体的な体験や活動を通ず単元開発を積極的に行う。

(1)【対象との距離を縮める一人一匹飼育体験】

本校は小さな観察池があるだけで、小動物の飼育をしていない。家庭で生き物を飼っている児童も少なく、生き物と触れ合う機会が乏しい環境にある。そこで、本単元を通して、一人一飼育を基本として、一人一人が生き物と直接、継続して関わられるような活動の工夫をしたい。捕まえた生き物は、可能な限り学級で飼育させ、継続して世話をすることで、生き物の不思議を見付けることができる。また、家庭や放課後の遊びの中で捕まえてきた生き物を学校に持ってきて飼育していきたい。たとえ、数日の短い期間でも一人で関わる時間をとった方が生命の尊さを直接感じ取れると考える。ただし、1年生の発達段階を考慮し、世話をしやすい生き物と世話をしにくい生き物があることにもふれ、飼う生き物の種類を決めて、飼育していきたい。また、これまで生き物が苦手に関われなかった児童も少しずつさわったり、声をかけたりと対象との距離を縮めることができると考える。

(2)【生き物に夢中になるような教室環境の工夫】

児童が生き物を観察する際は、夢中になれるような教室環境の工夫をしたい。教室には虫かご、昆虫図鑑、昆虫模型、絵本を単元の始まる前から置いておき、自発的に生き物を採集しやすくしておく。昆虫観察4点セットとして、【虫めがね、トレー、軍手やビニール手袋(虫が苦手な子用)、観察カード】を置いておき、休み時間にも虫の不思議を見付けやすくしておく。さらに、教室に常時、採集してきた生き物を虫かごに入れておき、休み時間にいつでも観たり、触れたりできる環境を整えたい。友達の採集してきた生き物が近くに置いてあることで、同じ種類の生き物同士や違う種類の生き物同士をそれぞれ比べたり、違いをすぐに発見できたりすると考える。

視点2 児童が「やってみたい」「できるようになりたい」という自分の思いや願いをもち、対象と進んでかかわる指導計画を工夫する。

(1)【ICTの利用による記録の可視化】

生き物をよりくわしく観察するためのICTの活用として、ギガタブで写真を撮ったり、ギガタブの写真に気付いたことを書き込んだりするようにする。絵を描いたり、文字を書くことが苦手な児童もいるので、写真、音声入力、手書き入力の機能は、記録を可視化した状態で残せる利点がある。6月からギガタブを他教科でも活用しているので、少しずつギガタブにも慣れてきている。アサガオの観察の際にもギガタブで自分の花を写真で撮り、教室で観察カードを描いた経験もある。また、写真を撮って動いているものをじっくり観察すること、インターネットでの図鑑などを活用することもできる。そして、1年生なので、ギガタブ活用の際に、使い方で困ることがよくある。その時はICT支援員さんがいることで安心して学習できると考える。

(2)【児童の思いや願いを大切にしたい単元構成の工夫】

単元の導入で教師の夏休みの思い出話として、家で飼っていたスズムシとコクワガタをお楽しみボックスに入れて、提示し、虫への興味をもたせる。音だけを聞かせてどんな生き物がお楽しみボックスに入っているのかをクイズ形式で出題する。わくわく、どきどきする体験をして生き物の学習を展開することができる。また、繰り返し見て、触れ合えるための授業時間の確保をし、体験活動と表現活動の一連の流れを何度か繰り返すような単元を構成したいと考える。まとめの段階である『むじまんたいかい』に向けての準備は、図工、国語の他教科に関連付けることで、カリキュラムマネジメントを充実させることにつながる。

このように、児童が主体的に活動し、友達にも生き物の不思議を伝えたい、教えたいという児童の思いや願いの高まりが虫自慢大会に繋がっていく。単元を通して児童が主体的に活動し、生き物との関わりを通して、自己の成長にも繋がっていくと考える。

視点3 主体的に学ぶことができる生活科の学習活動の工夫をする。

生き物を観察して見付けたこと、不思議に思ったことなどを観察カードに記録することだけではなく、生き物の種類ごとに掲示板を作ること、同じ生き物をお世話している友達同士で交流ができるようにする。児童一人一人の生き物へ関わった経験が違うので、自分が飼っている生き物の様子や世話について、友達と楽しさを共感したり、困っていることを助言し合ったり、情報を交換できるように、生き物の種類ごとに掲示板を作成し、付箋で見付けたことを貼れるようにしたい。授業はもちろんのこと、休み時間も付箋は書けるようにして、発見したことはすぐに掲示板に貼れるようにする。掲示板を見ることで、情報が共有でき、新たな視点で自分の世話をしている生き物を観察していくことができる。そうすれば、自分が世話をしている自分の生き物がもっと喜ぶ世話の仕方を考えるきっかけになると考える。

6 本単元の位置づけ

月	単元名	学習活動	() 内容	○時数	☆本単元
4	<p>スタートカリキュラム みんななかよし⑬(1)(2)</p> <p>○学校探検などをして学校のことを知り、安心感をもつとともに、小学生になったことを実感する。</p> <p>○2年生と交流をしたり、新しい友達や先生、上級生と関わって遊んだりして、学校生活に親しみをもつ。</p>				
5	<p>がっこうにくるみち かえるみち②(3)(4)</p> <p>○通学路の様子に関心をもって安全に気を付けて登下校する。</p> <p>○公園でルールを守って友達と楽しく遊ぶ。</p> <p>○通学路にいる地域の人々の存在に気付く。(セーフティーウォッチャーさんの紹介)</p>				
6	<p>はなややさいと なかよし(7)⑰</p> <p>○アサガオの栽培活動に取り組む。</p> <p>○サツマイモ、らっかせい、大豆の栽培活動に取り組む。</p>				
7	<p>なつとなかよし⑱(5)(6)</p> <p>○季節の変化を感じ夏の訪れに気付く。</p> <p>○身の回りの花や実を使った遊びを楽しむ。</p>				
8	<p>○シャボン玉遊び、水鉄砲遊びなどの夏の遊びを工夫して楽しむ。</p>				
9	<p>○作ったものを絵や言葉で表し、伝え合う。</p>				
10	<p>あきとなかよし⑫(5)(6)</p> <p>○校庭や公園で秋を探す。</p> <p>○集めてきた秋のものを絵や言葉で表し、伝え合う。</p> <p>○秋のものをを使った遊びを考え、楽しく遊ぶ。</p> <p>○秋の自然物を使った遊びを考え、作りたいものを作る。</p> <p>○見つけた楽しさを他学年や家族に伝える。</p> <p>あきパーティー(学習発表会※コロナ感染状況によっては中止)</p>		<p>いきものとなかよし⑨(7)</p> <p>☆本単元</p> <p>○校庭の植え込みや草むらで捕まえてきた生き物をしばらく飼育し、すみかやえさを工夫しながら生き物に親しむ。</p> <p>○生き物の観察をする。</p> <p>○生き物の不思議について友達に伝える。</p> <p>虫自慢大会</p>		
11	<p>○アサガオの成長の様子を観察する。</p> <p>○アサガオのつるでリースを作る。</p> <p>○らっかせい、大豆の収穫をする。</p> <p>○サツマイモの収穫をする。</p> <p>○チューリップの栽培活動に取り組む。</p>				
12	<p>ふゆとなかよし⑳(5)(6)</p> <p>○校庭や公園で冬を探す。</p> <p>○新年を迎える準備をする。</p> <p>○地域の名人さんに教わって昔遊びに親しむ。</p> <p>○練習した昔遊びを地域の園児たちと一緒に楽しむ。(昔遊び交流会 幼保小交流※コロナ感染状況によっては中止)</p> <p>○風や光を使った遊びを楽しむ。</p>		<p>もうすぐ2年生㉑(8)(9)</p> <p>○春の訪れに気付き、自分の成長を振り返るとともに、関わった人に感謝の気持ちをもつ。</p> <p>○新一年生のために自分たちができることを考える。</p> <p>○学校案内をしたり、新1年生を迎える準備をしたりする。</p>		
1					
2					
3					

7 単元構想

(1) 児童の思いや願いを生かした活動



校庭にはどんな虫がいるのかな。

虫を飼って、お世話をしてみたいな。



主 な 学 習 内 容 と 活 動	他 教 科 と の 関 連
<p style="text-align: center;">一次 むしハンターになろう</p> <p>《期待する姿》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">校庭のどこに虫がいるのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">虫かご、虫あみをもって、出発！</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">石や葉っぱの下にも虫がかくれているよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">草むらにも虫がいるよ。</div> </div> <p>○こうていにはどんなむしがいるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫探しを楽しむ。 ・校庭のどの場所にどんな虫がいるのかを把握する。 <p>○みつけたこと、かんじたことをはっぴょうしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことや発見したことをみんなに教える。 	<p>〈道徳〉</p> <p>「うまれたてのいのち」</p> <p>生命あるものを大切にしようとする気持ちを養う。</p> <p>「つばめ」</p> <p>身近な動植物に優しく接しようとする心情を高める。</p>
<p style="text-align: center;">二次 むしとなかよしになろう</p> <p>《期待する姿》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">コオロギは石の下にいたから、隠れ家も作ろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">えさは何を食べるのかな。</div> </div> <p>○むしはどんなおうちをつくったらよるこぶかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼う時の約束を確認する。 ・教科書や図鑑で調べてみる。 ・すみかとなる採集した場所をギガタブで写真を撮っておく。 <p>○むしのおうちのほうこくをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫のすみかの作り方や世話の仕方の工夫を伝える。 	
<p style="text-align: center;">三次 むしじまんたいかいをしよう</p> <p>《期待する姿》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">カマキリの顔は三角だね。もっとよく見たいな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">虫めがねを使って、よく見たいな。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">コオロギは羽をふるわせながら鳴くね。</div> </div> <p>○かっているむしのからだのつくりやうごくようすをよくみてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫めがねを使って詳しく観察する。 ・NHK for schoolのものすごい図鑑や昆虫図鑑を見たり、調べたりする。 ・ギガタブで撮った写真に手書きで詳しく虫の様子を書き込んだり、観察カード、付箋に記入したりする。 <p>○えほんのよみきかせをきいて、むしのふしぎにきょうみをもってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせを聞く。 <p>○ともだちにむしのふしぎをおしえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギガタブの写真を見せたり、画用紙に絵を描いたり、模型を作ったり、虫の様子を動作化をしたりして、発表をする。 <p>○がくしゅうをふりかえろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習の前後における自身の変化に気付く。 ・次の単元の見通しをもつ。 	<p>〈図工〉</p> <p>絵画、工作</p> <p>〈国語〉</p> <p>「ききたいなともだちのはなし」</p> <p>友達の話の内容を捉えて感想をもつ。</p> <p>「せつめいするぶんしょうをかこう」</p> <p>虫のことについて事柄の順序にそって説明する。</p>

(2) 単元の流れと評価 (全9時間)

○学習内容 (時数)	・評価の視点	◎手立て
むしハンターになろう (3)		
<p>○こうていにはどんなむしがいるのかな (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫探しを楽しむ。 ・校庭のどの場所にどんな虫がいるのかを把握する。 <p>○みつけたこと、かんじたことをはっぴょうしよう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことや発見したことをみんなに教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物が生息している環境や捕まえ方に気付いている。 【知識・技能】 ・生き物がいそうな場所を見通して、採集方法を工夫している。 【思考・判断・表現】 ・身近な生き物に関心をもって、生き物を探そうとしている。 ・捕まえた生き物と仲良くなるようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>◎夏休み中に出会った生き物や校庭などで出会う生き物を紹介しよう。</p> <p>◎虫あみ、虫かごを持たせることで、児童の好奇心を高める。</p> <p>◎一人一飼育を基本とするが、虫探しが苦手な子は数人のグループに分かれて、協力しながら虫さがしができるようにする。</p>
むしとなかよしになろう (2)		
<p>○むしはどんなおうちをつくったらよろこぶかな。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼う時の約束を確認する。 ・教科書や図鑑で調べてみる。 ・すみかだっと思ったと考えられる場所をギガタブで写真を撮ってくる。 ・調べたこと、分かったことは観察カード、付箋、ギガタブに記録しておく。 <p>○むしのおうちのほうこくをしよう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫のすみかの作り方や世話の仕方の工夫を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の成長に様子や生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。 【知識・技能】 ・生き物に合わせて、世話の仕方を試している。 【思考・判断・表現】 ・飼育している生き物のすみかやえさに関心を持ち、繰り返し、世話をしようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>◎飼う時の約束を守るように、掲示物を貼っておく。</p> <p>◎図鑑や絵本は子どもがすぐに見られるように常時、教室に置いておく。</p> <p>◎図鑑のどのページを見ると調べやすいか、ある程度の目安の付箋を貼っておく。</p> <p>◎虫を直接触れない時は模型を使って慣れるように声かけをする。</p> <p>◎虫の種類ごとに報告をし、よりよいすみかに気付けるようにする。</p>
むしはくらんかいをしよう (4)		
<p>○かっているむしのからだのつくりや、うごくようすをかんさつしよう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫めがね、ギガタブを使って詳しく観察する。(本時) <p>○絵本の読み聞かせを聞いて、虫の不思議に関心をもって、調べる。(1)</p> <p>○ともだちにむしのふしぎをおしえよう。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の動きや体の特徴について気付いている。 ・上手に生き物の世話ができるようになった自分に気付いている。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の不思議を虫メガネやギガタブを使ってよく見て調べようとしている。 	<p>◎虫めがねの使用方法を確認する。</p> <p>◎観察しやすいように透明カップや透明カップを半分にした容器に虫を入れて、虫を下からも横からも見るように声かけをする。</p> <p>◎絵本の読み聞かせで、よく見えるように書画カメラを使い、大型テ</p>

<p>・絵を描いたり、模型を作ったり、虫の様子を動作化をしたりして、発表をする。</p> <p>○がくしゅうをふりかえろう。</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を振り返って、できるようになったことを考える。 ・次の単元の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や文、工作、体を使うなど、様々な方法で見つけた不思議を表現している。 ・他の生き物の成長などとの違いで、比較しながら表現している。 ・自分の見つけた不思議を自覚し、友達を発表を聞き関連付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕まえた生き物を思いや願いをもって、ねばり強く世話を続けている。 ・絵本の読み聞かせながら、生き物の不思議に関心をもち、調べようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>レビに映す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎どの方法を使って、友達に虫の不思議を伝えるのかを確認する。 ◎観察カードに書いた感想をふりかえりながら、単元を通して、虫と仲良くなれたか、虫のお世話を通して生命の尊さに気付けたかを確認する。
---	--	---

8 本時の学習

(1) 本時の目標 (6/9)

飼っている虫と関わりながら、体のつくりや動く様子を観察し、虫の不思議に気付けるようにする。

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容 (○) 児童の予想される反応 (・)	教師の支援 (◎) と評価 (☆)
5	<p>○前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシは、石の下や植木鉢の下など暗い所に固まっていたよ。 ・ショウリョウバッタは、草にとまっていたよ。 ・コオロギもダンゴムシと同じような暗い場所にいたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎教室に常時置いてある虫かごを自分の席に置き、詳しく観察することで、虫の体のつくりや動く様子を気付けるようにする。 ◎ギガタブを自分の席に置いて活用できるようにする。
20	<p>○学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>むしと もっと なかよくなって、ふしぎを みつけよう</p> </div> <p>○飼っている虫を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫めがねを使って、カマキリの足のギザギザを見てみよう。 ・虫の顔は人間と似ているね。 ・トノサマバッタとショウリョウバッタの目の色が違うね。 ・コオロギは羽をふるわせて鳴くんだね。 ・ギガタブを使って、カマキリが羽を広げた様子を調べてみよう。 <p>○見つけたこと、調べたことを観察カード、付箋、ギガタブに記録する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎一人一人が見たり、触ったりして、虫の動く様子や鳴く様子を観察して、虫と仲良くなれるように意識を高める。 ◎虫めがねの使い方を確認する。 ◎活動の場は自席だが、近くの席の児童同士が情報交換をしたり、一緒に観察したりできるように声をかける。 ◎ギガタブを活用しやすいように ICT 支援の木村先生を TT としお招きする。

5	<p>○虫の不思議について中間報告をし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫めがねを使うとよく見えたよ。 ・ギガタブを使うと拡大して写真が見れるよ。 ・手で触ると、虫の足がちくちくするよ。 	<p>◎児童の言葉を板書したり、ギガタブをテレビに映したりして、情報を共有したりすることで、ほかの児童の新たな気付きや発見につなげる。</p>
10	<p>○友達が見付けた不思議なことやおもしろいことなどを見直す。</p>	<p>◎机間指導をして、虫の不思議に新たな視点があることを声かけする。</p>
5	<p>○次時の活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カマキリの足を工作で見せよう。 ・模型を見せて、ダンゴムシの足の数をみんなに教よう。 	<p>◎虫の不思議を友達に伝える「虫の自慢大会」を開催することを知らせる。</p> <p>☆虫の不思議を虫めがねやギガタブを使ってよく見て調べようとしている。(行動・発言)</p> <p style="text-align: right;">【知識・技能】</p> <p>☆友達の観察方法のよさを取り入れたり、自分が観察している虫との違いを比べたりして、楽しく観察しようとしている。</p> <p>(行動) 【主体的に学習に取り組む態度】</p>

(4) 板書計画

むしとともなかくよくなって、ふしぎをみつけよう

虫の写真

虫の写真

むしをよくみるポイント

- ・かお (め、くち)
- ・あし (あしのかず、あしのうごき)
- ・からだぜんたいのうごき、さわったかんじ
- ・なきごえ

むしのふしぎ！！

- ・かたつむり
からだはぬるぬる
- ・こおろぎ
てでさわると、あしがちくちく
- ・だんごむし
つんつんするとまんまる
- ・ばった
あしはほそくて、ながい
6ぽんある
- ・こおろぎ
ごきぶりににている

うれしかったこと

- ・むしめがねをつかってめをじっくりみれたよ。
- ・むしをたくさんさわられるようになったよ。
- ・むしとともだちになれたよ。